韓国の現代民話

―― 日韓比較の視点から ――

島　村　恭　則

1．問題の所在

近年，アメリカやドイツ，日本などの民俗学界では，旧来の村落社会の「伝統的な」民俗を対象とした研究だけでなく，都市化された現代社会の民俗を対象とした研究（日本では，都市民俗学などと称されている）もさかんに行なわれるようになってきている。その場合の新たな研究内容にはさまざまなものがあるが，「都市伝説」とか「現代伝説」，「現代民話」などと称される現代の口頭伝承についての研究もこのうちの主要なジャンルの一つとなっている[1)]。

ところで，韓国において民俗学はめざましい発展をとげてきているが，それは村落社会を取り扱うものに限定されており，都市，現代社会についての具体的な民俗学的研究は未だ現われていないというのが現状である[2)]。

こうした状況の中，筆者は，「現代民話」を中心に，韓国の現代社会に関する比較民俗学的研究を開始した。本稿では，現時点でのその成果について中間報告を行ないたい。

---

1)　アメリカにおいては，これらのジャンルは Urban Legends／都市伝説の名で呼ばれ，ジャン・ハロルド・ブルンヴァンらによってさかんに研究がなされている。ドイツにおいては，Sagenhafte Geschichten von heute／伝説風のこんにちの語り／現代伝説の名で呼ばれ，ロルフ・ヴィルヘルム・ブレードニヒらによる研究が展開されている。また，日本においては，1970年代後半から松谷みよ子による資料収集が行なわれ，その後，1990年代に入って，アメリカ民俗学の影響（大月隆寛らによって翻訳［ジャン・ハロルド・ブルンヴァン 1988］がなされた）も受けながら，宮田登［1993，1995］や常光徹［1993］，近藤雅樹［1997］らによる分析的研究がさかんに行なわれるようになった。

2)　韓国の民俗学においては，都市民俗研究の必要性を強調する問題提起論文の類［朴 1992，林 1996］はあるものの，具体的な研究成果はまだ提出されていない状況である。

2．現代民話とは

現代の韓国社会には，民衆によって次から次へと言い触らされてゆくさまざまな話が存在している。ここではそれらのうち，過去の「伝統的な」神話・昔話・伝説に対して，都市化社会の現代生活を反映した話群を総称して「現代民話」と称することとする。そして，この「現代民話」という総括的な概念のもとに，以下のような下位分類を設定し，現実に存在する種々の話群を整理してゆきたい。

① 情報：客観的な根拠を示し得る，出来事・事物・人物についての種々の知らせ。
② 流言：客観的な根拠を示しえないが，人々の間で信じられ伝えられる，出来事・事物・人物についての知らせ。短期間に集中的に流通し，物語性は乏しい。韓国語のソムン（所聞）や，韓国社会でいうルーモー（rumor）がこれに相当する。
③ 現代伝説：真実として流布するいかにも本当らしい話。流言に比べて，類型性が強く，物語性に富む。例えば，韓国語のキシン（鬼神）・イヤギのうち現代的なものはここに含まれる。
④ 現代笑話：虚構であることを知りつつ，笑いを誘うべく語られる話。言語遊戯的な内容のものもここに含めることにしたい。韓国語のススケギ（なぞなぞ）のうち笑いを誘うものやウスケ・イヤギ（笑い話）がここに相当。
⑤ 身上話：現代人が語る，自己の身の上に起こった出来事についての主観と客観，事実と虚構が入り交ざった物語。ライフ・ヒストリーの語りを含む。たとえば，シンセ・タリョン（身世打令）はここに相当。

なお，このうち③の現代伝説は，いわゆる Urban Legends／都市伝説と内容的に重なるが，本稿では，都市という空間的に限定された概念よりも，生活様式の都市化や産業化といった動態（現代社会の特徴）を表現できる言葉として現代のほうを選択し，現代伝説という用語を使用することとしたい。

以下本稿では，これら現代民話のうち，現代伝説と現代笑話に焦点をあてて検討を進めてゆく。なお，資料として依拠するデータは，筆者が，1994年から1998年までの韓国滞在中に大学の講義レポートとして学生に提出させたものや市中でのインタビューによって得たもの，および韓国国内で市販されている出版物に掲載のもの，さらには日本の大学に留学中の韓国人学生らから聴取したものなどで，筆者の手元にある

話の総数は約300（話例の重複含む）である。

3．現代伝説の話例群

(1) 風　水

古代中国におこった風水思想は，朝鮮半島にも伝播しており，当地の社会に深く浸透して今日に至っている。現代においても，風水についての知識は老若男女を問わずに広く所有されており，とりわけ生活上の吉凶を論じるときにこれが話題にされることが多い。そして，風水をめぐる現代伝説もしばしば語られるところとなっている。次の話は大学生によって語り継がれている現代伝説としての風水フォークロアである。

［話例１］

江原道の春川市は盆地で，地図で見ると女の性器のような形をしている。とくに鳳儀山は，風水上，気の発生する穴があるところであるが，その鳳儀山は女性器の陰核の部分にあたる。翰林大学はこの山の斜面にあるが，陰核にはりついているところから，陰気が強い土地柄であった。陰気が強いと男は出世に響いたりして，よいことがない。そこで，陽気を増すために，しっかりと男性器のある裸体の像，すなわちダビテ像を建てたという。ところが，学校の中央の一番中心となる場所にこれを建てたため，今度は陽気が強すぎるようになってしまった。それで，今度は，正門の脇に女神像であるヴィーナス像を建てた。これでバランスがとれているのである。

この話は筆者が勤務していた大学の話であり，学生たちから直接聞いた。彼らは半ば笑いつつ，しかし本当かもしれないという表情で語っていた。

こうした話は，日本の大学生が語る現代伝説には見当たらない。古代の日本にも風水が伝えられていたことはたしかであるが，しかしそれが社会に深く浸透してきたわけではないこともまた明らかにされている［鈴木 1995］。また，90年代の日本は風水ブームの感があるが，今のところこれはマスコミに煽られた流行に留まっている。日本の現代伝説に風水の話がないことは，こうしたことの証左に他ならない。

(2) 軍　隊

男子に徴兵制がある韓国では，現代伝説においても軍隊がその伝承の舞台として大きなウエイトを占めている。軍隊生活は韓国男性の多くにとっては重要な通過儀礼の一つとなっており，また軍隊生活それ自体の中にも強い序列関係とそれへ組み込まれる際の通過儀礼が存在するが，その場合，現代伝説の語りも古参兵から新参兵へと伝承されることになっており，この伝承の行為が通過儀礼を構成する要素の一つともなっている。

［話例２］

この話は私が軍隊に入隊し，新兵訓練を終えて1987年３月，ある部隊に配置されて北韓との休戦線付近で勤務していたとき，古参兵から聞いたものである。また，この話は数十年にわたって古参兵から新参兵に語り伝えられてきているものである。

休戦線が江原道楊口郡のある場所を通っているが，その場所にあるバンカー（地下に設置される軍事用の監視室のこと）を焼肉バンカー（プルコギ・バンカー）という。ここからは，風が吹き雨が降る夜ごとに誰かが泣いているような声がした。それで我々はそこに行くのを憚っていた。ここについての話は次のとおりである。

1950年代までは休戦線には堅い鉄柵はなかった。それで南北ともに相手の部隊に回し者を侵入させることが容易であったという。ある日，民間人を装った北韓の回し者がこの焼肉バンカーの付近に侵入した。韓国軍側は，民間人だと考えて何の疑いも抱かなかったという。ところがその日の夜，その回し者が焼肉バンカーにやって来て，中にいた３人の韓国軍兵を火炎放射器で焼き殺したという。それで，焼肉（プルコギ）を料理するとき，やはり肉を火で焼くために，ここを焼肉バンカー（プルコギ・バンカー）と名付けたのだという。（話者は，慶尚北道大邱市にある啓明大学の男子学生。1994年採録）

軍人経験者によると，このような話は，部隊ごとにきわめて豊富に語られているといい，実際，兵役を終えて大学に復学した学生たちが語る現代伝説には軍隊時代に仕入れたものが多数含まれている。なお，現在徴兵制による軍隊の存在しない日本においては叙上のごとき伝承状況は存在しないのであるが，ただ，かつて軍隊が存在した

時代においては軍隊のフォークロアが盛んに語られていたわけで［松谷 1985］，それらと韓国における現在およびかつての軍隊のフォークロアの比較検討は重要な課題となろう。また，現今の日本の自衛隊では怪談が語られているといい，こうしたものやその他アメリカなど諸国の軍隊などとの比較もいずれは手懸けられるべきであろう。

(3) 女　性

儒教的価値観が強く社会を規定してきた韓国社会にあっては，変化の兆しもあるものの，未だ男女の間に強い差別が存在していることも事実であり，現代伝説にもそれは当然反映している。

［話例 3］

いつのことかはわからないが，昔，あるタクシー運転手が朝一番のお客として女性を乗せることになった。そのとき，不思議に一日の最初の客として女性を乗せることに気が進まなかった。しかし客であるから断らず，目的地まで乗せて行き，その後はいつもどおりの営業をしていた。しかし，夕方になり，この運転手は交通事故を起こし人を殺してしまった。数ヵ月後，再び最初の客として女性を乗せた。その日は収入が全然なかったし，気分も良くなかった。また，夜には酒に酔った客が理由も無しに喧嘩をふっかけてきて，結局 2 週間くらい入院するはめになった。

このようなことがあってから，この話が運転手達の間で伝えられ，以後運転手達は朝一番の女性客を絶対に乗せないようになったのだという。この話をしてくれたのは私の友人で，彼は以前タクシー運転手をしていたことがあるが，やはり朝一番の女性客は絶対に乗せなかったそうだ。（話者は啓明大学の男子学生。大邱市内のタクシー運転手だった友人から聞いた話。1994年採録）

「商店・食堂・タクシーで，朝一番の客が女性だとその日の売り上げはよくない（あるいは，よくないことが起きる）」といった俗信は韓国において一般的な知識となっている。この話は，この俗信が現代伝説として語られたものである。この種の現代伝説や俗信は，管見では日本ではそれほど顕在化して語られているようには思われないが，しかし，たしかに大阪府堺市在住のある話者は，タクシーに関して全く同様のジンクスがあると述べており，全く存在しないわけではないようだ。とはいえ，この種

の語りが社会において広く共有されているというのは日本には見られない状況である。韓国（男性）社会の女性観が表象された話例ということができる。

(4) 消える乗客

タクシーの乗客が目的地に着くと消えていたという「消える乗客」型の話は，日本において現代伝説の定番となっている[3]。またアメリカでも同様のストーリーが，タクシーではなく自家用車のヒッチハイカーとしてさかんに語られているが，韓国の現代伝説でもタクシーを舞台にこの話はきわめてさかんに語られている。

［話例４］

夜，タクシー運転手がマンウリ共同墓地で白い素服を着た若い女性の客を拾った。運転中，運転手がミラーを通して後部座席の客を見ると，その女性は見えたり見えなかったりした。目的地に着くと，客は「お金がないから家から持ってくる」と言って降りていった。しかし，いくら待っても戻ってこない。そこでその家に行く。すると老婆が出て，「その女は私の娘です。でも娘は５年前に事故で死んでいます。今日はちょうど，その子の祭祀（チェサ）の日です」と言った。（話者は啓明大学の女子学生。1990年に，通っていた高校で友人から聞いた）

この話型においては，きまって乗客である鬼神（幽霊）は白い韓服を着ており，当日は乗客の「祭祀（チェサ)」の日であったとされている。これらは韓国独自の要素であるが，ストーリー展開自体は日本やアメリカと同一である。とりわけタクシーを舞台としているところなど日本との親縁性が強い。

(5) 祭祀（チェサ）

前項の話例がそうであったように，怪談としての現代伝説において霊出現の時空が

3) 日本の「消える乗客」型伝承については多くの報告があるが，話例を一例のみあげると，次のようなものである。

ある雨の夜に，タクシーの運転手が若い女の客を拾った。行先を聞くと，青山墓地と答えた。やがて，目的のところに着いて運転手がふり向くと，乗ったはずの女の姿はなくて，シートがしっとりとぬれていた。（牧田茂「民俗学の対象としての『世間話』── その回顧と，未来のために ──」『昔話と世間話』三弥井書店，1985年）

祭祀（チェサ）の場に求められることはきわめて多い。祭祀（チェサ）とは儒教式の祖先祭祀儀礼であり，農村・都市を問わずに一般に行なわれているものであるが，近年は，生活様式の変化にともなって儀礼の開始時間などに変化が生じている。次の話例はそのあたりの事情を語っている。

［話例５］

大邱のあるスーパーに，夜の12時頃，腰の屈んだおばあさんが入ってきた。そのおばあさんによると，息子の家に晩ご飯を食べさせてもらおうと思ってやって来たが，息子達の家族はみな早く寝てしまっていて晩ご飯を食べさせてもらうことができなかった。それで腹が減って仕方がないのでパンを買って食べようと思ってやって来たのだという。おばあさんはパンを買い，その場でおいしそうに食べてから５千ウォン札を出した。そこで店員がお釣りを渡すと，おばあさんはどこかへ去って行った。

翌朝のことである。店員がその５千ウォン札を見てみると，それは落葉であった。そしてこの話を店に来る客達にしていると，隣家の人が，それはうちの亡くなったおばあさんに違いないと名乗りをあげた。隣家では，前の晩はおばあさんの祭祀（チェサ）の日であったが，午後８時頃に早々と祭祀を済ませ早く寝てしまったのだという。（話者は啓明大学の男子学生。1994年４月，母から聞いた。大邱で実際にあったことだという）

命日に行なわれる祭祀（チェサ）は，伝統的にはその日の午前０時に開始するものとされてきたが，今日では開始時間を２時間とか３時間あるいは４時間と，早めて行なうケースも多くなってきている。これは祭祀に集まる人々の世俗的時間の都合を考慮してのものであるが，これだと日付が命日に変わる前に祭祀（チェサ）が行なわれることになり，本来，命日に行なわれるべきものが行なわれないということになってしまう。上の話例は，そのような祭祀開始時間を早めた場合に，命日の午前０時という旧来のしきたりどおりの日時にやって来た霊が祭祀を受けられなかったために起こったとされるもので，現代韓国文化における伝統と現代のズレが都市伝説として表現されたものであろう。

この話は韓国各地で類話が語られているが，それにとどまらず，さらに在日韓国人の家庭でも語られているのを筆者は確認している。日本定住の韓国人も韓国式の祭祀（チェサ）を行なっているが，ここでも本国とまったく同様の事情で，儀礼過程の変

化が生じているのであり，同様の語りが発生する基盤が存在しているのである。伝統的方法と現代的変化の狭間にある人々の心意が，共通の語りとして表象されたものと理解できよう。

(6) 学　校

日本の現代伝説の主要なジャンルとして，学校の怪談がある。小中学校あるいは高等学校の生徒たちが学校を舞台とした怪談をさかんに語っているのだが，同様の現象は韓国でもみられる。話の内容は，登場する鬼神の容姿などに微細な差異は含みながらも，トイレや音楽室の怪談など，日本のそれに概ね類似したものとなっており，たとえば，それは次のようなものである。

［話例６］

ある女学生が，学校のトイレの，横並びになっている個室の一番奥のトイレに入っていた。すると，誰かがやって来て一番はじめのトイレをノックし，中に誰もいないとわかると「あっ，いない」と言い，トントントンという音をたてながら隣のトイレの前にやってきてドアをノックする。そこにも誰もいないとわかるとやはり「あっ，いない」と言い，トントントンという音をたてて次のトイレに移る。そのようにしてついには女学生の入っているトイレの前までやって来た。女学生は，とても怖かったが一体誰がやってきたのだろうかと思って，ドアの下側の隙間からそっと覗いてみた。すると「あっ，いる」という声。隙間を通して学生とその不気味な者の目があったのである。女学生は気絶してしまった（死んでしまったともいう）。音をたててやってきたのは卵鬼神（タルギャル鬼神）という鬼神で，体の形は卵，細い足がついている。頭と足が上下逆さまになっており，頭の部分が床をトントントンと叩きながら歩くというものであった。卵鬼神は，結婚しないで死んだ女が鬼神となったものだという話も聞いたことがある。

（話者は啓明大学の女子学生。1994年採録）

この種の話は枚挙に暇がない。そして，日本では，学校の怪談研究の深化がきっかけで90年代に相次いで映画『学校の怪談』シリーズが制作され人気を博したが，韓国でも学校の怪談を素材にした映画『女高怪談』が98年に上映され話題をよんだ。ここにも日韓における現代民話をめぐる状況の類似性を指摘することができる。

(7) 赤いマスクの女

日本では，1979年に小学生の間で，口が裂けた鬼女が子供たちを襲うという「口裂け女」の話[4]が全国に広まり，パニック状況の発生を見たが，明らかに「口裂け女」に相当する怪談が韓国でも語られた。

［話例７］

わたしは国民学校時代，ソウル郊外の議政府市に住んでいた。その頃，学校帰りに赤いマスクの女というのが出るといってみんな怖がっていた。赤いマスクの女は，電信柱に隠れていたり，建物の影に隠れていたりして，子供が通りかかると突然あらわれる。そして，「わたしは美人か？」と聞いてくる。「美人です」と答えると，「これでもか？」といって赤いマスクを取る。すると口は大きく裂けている。そして，逃げようとする子供を追いかけてくる。答えるときに，こわくて何も答えられなくても，結局は赤いマスクをとって裂けた口を見せてくるので同じことらしい。この話を聞いたころは，みんな怖くて一人では道を歩かなかったが，しばらくするとこの話も忘れ去られてしまった。（話者は，ソウルにある延世大学の男子学生。1996年採録）

この話例は，ソウルの学生からも，韓国中南部に位置する大邱の学生からも，また江原道在住の社会人からも，いずれも「赤いマスクの女」という名称の話として聴取することができた。かなり広い範囲で語られていたものと考えられる。そして語られた時期は，それらの話者の記憶によると，およそ80年代末から90年代初頭であったらしい。ただし，日本ほど一時期に集中して語られたわけではなく，大きなパニックが発生したこともなかったという。むしろ，「学校の怪談」の一つとして享受されていたという状況だったらしい。内容的には，マスクが赤色であると特定されているところや，「口裂け女」譚のようにべっこう飴やポマードといった呪物を登場させる逃走

4) 例えば，次のような話例である。
小学生が下校中，マスクをした若い女に声をかけられ，振り向くと，「わたしきれい？」と聞かれる。「きれいです」と答えると，「これでも？」と言って女はマスクをとる。するとそこには，大きく裂けた口があった。小学生は逃げるが，ものすごいスピードでその女（口裂け女）は追いかけてくる。女は鎌を持っている。あわやつかまりそうになるが，「ポマード」と叫びながら，べっこう飴をなげつけると，女は逃げてゆく。なお，「きれい？」と聞かれて「きれい」と答えない場合は，そのまますぐに追いかけてくるという。（筆者が1979年、小学生だったときに聞いた話）

譚にはなっていないところが日本との差異であるが，両者のストーリー展開はそっくりであり，語られていた時期から判断すると日本からの伝播の可能性が高いように思われる。

(8) おまじない

日本の小中学生あるいは高校生のうち，とりわけ女子生徒の間では種々の「おまじない」が行なわれており，それにまつわる現代伝説もしばしば語られるところとなっているが，同様の「おまじない」と語りは，韓国の女子生徒の間でも広く行なわれている。

［話例８］

キョンアは，学校で変な話を聞いた。夜12時に口に包丁をくわえて水がいっぱいに満ちている洗面器を見つめると，将来の自分の夫の顔が映るという話だった。好奇心旺盛な彼女は，早速やってみることにした。夜12時になって洗面器に水をいっぱい入れ，包丁を噛んで水の中を見つめた。なんとだんだん顔の形が出てきた。これに驚いたキョンアは包丁を落としてしまった。すると洗面器の水が赤色に変わった。彼女は水を捨て，部屋を逃げ出した。

10年後，キョンアは結婚した。見合いで出会ったドンスは良い人だった。新婚旅行に出発しようと空港に着いた二人は，お腹が空いていたのでハンバーガーを食べようとした。ドンスが口を開けると，彼の唇から血がポトリと落ちた。「どうしたの？」と尋ねるキョンアに，ドンスは言った。「10年前，君が包丁を落としたんじゃないか！」。（話者は，江原道春川市にある翰林大学の女子学生。ソウルの高校時代に聞いた。1997年採録）。

この話も，日本にそっくりなものが存在しており[5]，両者の間の親縁性が際立って

5)　例えば，次のような話例である。
「未来の夫」
午前０時０分０秒に，カミソリを口にくわえ，水をいっぱい入れた洗面器をのぞきこむと，そこには未来の結婚相手の顔がうつる。その話を聞いたA子さんは，さっそく自分でも試してみようとカミソリをくわえ，午前０時きっかり，水をたたえた洗面器をのぞきこんだ…すると，本当にぼんやりと顔が見えてきた。A子さんはおどろいて，洗面器のなかにカミソリを落としてしまった。洗面器の水は一瞬真っ赤な血の色にそまったかとおもうと，すぐまた，ただの水にもどった。↗

いる。

(9) エイズ

エイズの感染をめぐる現代伝説は，アメリカにおいてさかんに語られ[6]，日本でも「エイズの世界へようこそ」という話をはじめいくつかの話例が語られているが[7]，韓国社会においてもエイズをめぐる話はしばしば語られている。その一つをあげてみると，

［話例９］

エイズに感染した人が，「自分だけが死ぬのは嫌だ」と思って，注射器で腕から自分の血液を採り，上着のポケットにそれをしのばせ，ダウンタウンに行って通行人の後ろを歩きながらその人のお尻にこれを注射するのだという。だから，ダウンタウンを歩くときは上着のポケットに両手を入れて後ろをつけてくる人がいたら要注意だといわれた。（話者は啓明大学の女子学生。1989年，姉から聞い

↗　それから数年後，A子さんはひとりの男性とお見合いをしました。二人はすっかり意気投合して結婚することになりました。ところが，彼は顔の左半分をいつも髪で隠して見せないのでした。

A子さんが，
「結婚するのだから顔を見せて」
と言うと，彼は，
「むかし，ある人にひどく傷つけられ，見せられない」
と言った。A子さんが，
「だれなんですか」
と聞くと，男性は，
「おまえにやられたんだ！」

［出所］報告者は，東京の大学の男子学生。樋口淳氏に提出したアンケート。（樋口淳編「ヤングの知っているこわい話（25）」一九九六年五月）
（池田香代子他編著『走るお婆さん ── 日本の現代伝説 ──』白水社，1996年）

6) 例えば，次のような話が語られている。
最近，離婚した男がシングルズ・バーへ行き，美しい女性に出会った。彼らは仲良くなり，最後に男の家へ行って一晩中愛し合った。男が翌朝目覚めると，彼女はいなかった。彼はバスルームへ行った。そして鏡を見た。真っ赤な口紅でそこに殴り書きされていたのは，「エイズの世界へようこそ！」というメッセージであった。（ジャン・ハロルド・ブルンヴァン『くそっ！ なんてこった ──「エイズの世界へようこそ」はアメリカから来た都市伝説 ──』（行方均訳）新宿書房，1992年）

7) 例えば，次のような話が語られている。
ある男性が，酒場で，初対面の若くてきれいな女性と親しくなり，そのままホテルに行く。一晩過ごした後，目がさめると女はもういない。ふと鏡を見ると，そこには口紅で次のように書いてあった。「エイズの世界へようこそ」。（筆者が大学時代の友人から94年に聞いた話）

た。この話を聞いた後，周囲の友達に聞いてみたら半数の人がこの話を聞いたことがあると答えた。1994年採録）

エイズは国や地域を選ばずに存在する病気であり，これに対する不安は普遍的に存在する。それが大きな社会不安の一つとして存在する限り，現代伝説の語りとして噴出してくるのは当然のことであろう。

以上，駆け足であったが，韓国の現代伝説の一端を提示してみた。紙幅の関係からそのすべてを紹介することは到底できないため，これらの事例だけで韓国の現代伝説を語り尽くすことなど不可能である。しかし，つとめて，一般的に広く語られている話をここでは取り上げたつもりである。したがって，これらの話例をもとに，韓国社会における現代伝説についてある程度の見通しを示すことは許されてよいと考える。

さて，その場合，これらの話例群を検討してみると，今日の韓国社会において現代伝説がたいそう好まれてさかんに語られていること，また，韓国の社会・文化的背景にもとづく「韓国的」語り（たとえば，話例1，2，3，5および各話例中の微細な舞台装置的部分）も少なくないものの，ストーリー展開の構造や好んで語られる主題，語り手などが日本の現代伝説と同一である場合（話例4，6，7，8，9など）も多く見られること，といった指摘をすることが可能であろう。

なお，これら現代伝説の多くは，一般的に，非日常的な時空において語られる傾向があり，またその生成，変化のサイクルは長期的な波動を描く傾向があるということも指摘できる。

4．現代笑話の話例群

(1) 政治家

1993年，初の文民出身大統領に就任した金泳三は，その後，選挙資金疑惑や97年以降の経済危機の責任問題などが重なり，信用ガタ落ちの状態でその座を金大中に譲ったのであるが，金泳三政権末期の97年には次のような話が広まっていた。

［話例10］

ある朝，金泳三が家で新聞を読んでいた。紙面をあちこちめくりながら，彼は独り言を言った。「うむ。ヘクサチャル（核寺刹＝核査察）だと？　寺で何のために核武器を所有しようというのだ」。

またページをめくってから，「何，ヘクカジョク（核家族）だと？　家々で核武器を所有したら，危険極まりないじゃないか」。

心配そうな顔をしながら，今度は広告欄を眺め，「何，ヘクサン（核山＝核酸）が25％だと？　わが国の山の25％に核を設置しようということか？」。

彼は，たいそう不安そうな顔をしながら，窓の外に目をやった。「あっ，それなら，あの赤い十字は，みな核ミサイルの基地だということか！」。（話者は翰林大学の男子学生。1997年採録）

この手の話はきわめて豊富で，いずれも大統領の「無能ぶり」を諷刺しようとするものである。こうした話は金泳三に限らず，歴代大統領について必ず語られてきた。全斗煥大統領の時代（1980～88年）に好んで語られていたのは次のような話である。

［話例11］

全斗煥と妻の李順子がアメリカを訪問したときのこと。公式歓迎行事が終わってからの，レーガンとの非公式ティーパーティーの席で。

レーガンが“Coffee please”と言い，李順子は“Me too”と言った。英語のできない全斗煥は“Me three”と言った。すると，李順子が「ネー（はい）」と答えたとさ（← Miss Lee）。（話者は翰林大学の男子学生。1996年採録）

［話例12］

ある日，レーガン米国大統領と全斗煥とローマ教皇と子供の４人が，潜水艦に乗って海底探査をしていた。急に潜水艦が故障して，４人は非常脱出することになった。しかし酸素呼吸装備が３つしかない。困っていたが，レーガンが，「すまんね，私は世界平和のために生きなければならないから」と言って酸素呼吸装備を一つ取って脱出。これを見ていた全斗煥は一言も言わず，装置を取ってレーガンのあとを追いかけた。結局，酸素呼吸装置は一つしか残っていない。教皇は，しかたがないので，残っていた一つを子供に渡した。すると子供が笑いなが

ら言った。「さっき脱出したはげのおじさん（全斗煥）は，酸素呼吸装備ではなく，消火器を持って脱出したよ」。（話者は翰林大学の男子学生。1997年採録）

この種の話は無数に語られてきたが，これが語り出される背景には，90年代に入るまで長らく続いた軍事独裁政権とそれに対する民主化運動の展開という社会状況がある。独裁政権下では，政治に対する批判的言動は一切許されていなかった。それどころか，民衆には政治に関わる正確な情報も伝えられることがなかった。その場合，信用すべき正確な情報が入手できないところで発生するのが流言である。70，80年代の韓国では，きわめて多くの流言が語られていた。それらは，「流蜚通信（ユビトンシン）」（流言蜚語による通信，情報交換）ともいわれ，それを密かに語り合うことによって，生起している政治的事実やその意味についての推測や批評を行なうというものであった[8]。

ところで，そうした流言の中には，単に政治的情報を淡々と語るだけでなく，笑いを誘うものも含まれていた。たとえば，（民主化運動の現場である）「延世大学で起こったことだ。或る学生が歩きながらビラをまいていた。驚いてキャンパス駐在の情報員たちがかけ寄った。しかしとりあげてみたビラは白紙であった。彼らもあっけにとられてしまった。一種のユーモアであり脅かしであったわけだが，この頃は内容は書かなくてもいい。白紙で十分おたがいにわかるからね」［T・K生／世界編集部編 1977］といったものであるが，これは体制にユーモアを以って対抗するという語りである。おそらく，このような語りが生まれる土壌の中から，上掲の政治家に対する諷刺的笑話も発生したものと思われる。為政者について白昼堂々と批判を行なうことが許されていなかった状況下で，人々はこの種の噂話を語ることにより，一時しのぎ的なものではあったが，そっと溜飲を下げていたのである。

(2) 学生運動

90年代以前の韓国社会では，軍事独裁政権打倒をうたう民主化運動，学生運動がきわめてさかんであり，上に見た現代笑話もそうした中で語り出されたものに他なるまいが，今日の大学のキャンパスでも権力諷刺の語りを目の当たりにすることができ

8)　軍事独裁政権下の韓国社会における流言の様態については，拙稿［島村 1999］にて論じている。

る。

［話例13］

延大抗争その後…無知な担当刑事

この文章は，延大抗争で連行され，警察署で陳述書を書かされた学生の経験がおもしろくPC通信に載せられていたのを抜粋したものです。数千名の学生を捕まえて，実績をあげるために強引に陳述を強要する刑事達の公権力乱用を諷刺的に批判しています。

おはなし1　私たちの学校で新しく出来た学生証を知っているか？　銀行のキャッシュカードと学生証が一緒になっているあれだ。担当刑事がこれを見て…，(学生の頭を叩きながら)「こいつらは大学生のくせに，クレジットカードか。分際もわきまえんで」。

まったく，説明するのに汗が出たぜ。(おはなし2，3は省略 ── 引用者)

第12代　自主総学生会
第12代　工大学生会
第12代　医大学生会
第8代　人文大学生会
第8代　社会大学生会

これは翰林大学のトイレに貼られていた貼り紙である。96年に筆者が採取したもの。学生たちによると，以前ほどではないにせよ，こうした語りは，学生運動に関わる学生の周辺では，今日でもしばしばなされているという。

(3) チェ・ブラムシリーズ

諷刺は，大統領や警察に対してだけでなく，権威主義的な役人や無理難題をいう大学教授などについても行なわれている。

［話例14］

ある日，チェ・ブラムが担任の教師として勤務している初等学校に奨学士がやってきた。自然の時間に突然教室に入ってきた奨学士は，教室の机の上にあった

地球儀を指差し，ある児童に尋ねた。「なぜ地球儀は傾いているのか？」。子供は答えた。「ぼくはやっていません」。ムッとした奨学士は担任のチェ・ブラムに同じ質問をした。チェ・ブラムは答えた。「買ってきたときからこうなってたんですけど」。（スポーツ・ソウル 1997/2/18「賢くなったチェ・ブラム，カムバック」）

［話例15］

チェ・ブラムが大学に通っていたときの話である。試験の季節になり，チェ・ブラムは嫌でも試験を受けざるをえなくなった。その日は生物学の試験であった。しかし，死ぬことよりも勉強が嫌いな彼は，当然のことながら教科書にはまったく目を通していなかった。それよりも何よりも，生物学自体何かもわかっていなかった。いよいよ試験が始まって，彼はチャイムのベルと同時にため息をついた。彼の目に入ってくる問題は彼の常識では全く納得のいかないものであった。そこで彼は，先生に聞こえるような大きい声で，「ふざけんなよ。これが大学で行なわれる試験かよ。大学生をなめてんのかよ！」と叫んだ。

試験の問題は，鳥の足の裏の写真を見てその鳥の名前を当てるというものだった。教授は彼の言葉を聞いて，「おまえ，みんなの迷惑だぞ。勉強してこなかったのなら，素直にしてないって言えよ。ちょっと前まで来い。おまえは退場だ。こら，名前は何というんだ？」と言った。すると，チェ・ブラムは教授の前で靴を脱ぎ，靴下も脱いで，足の裏を見せながら，「当ててみなさいよ」。（話者は，東京の杏林大学に留学中だった韓国人女子学生。1995年採録）

ここでは，これらの話に出てくるチェ・ブラムという人物について着目しなければならない。チェ・ブラムとは，韓国の最長寿人気テレビドラマ「田園日記」で主人公を演じる俳優の名である。ちょっと頑固だが人のよい農村のアジョシ（おじさん）役の彼は，「典型的な韓国のアボジ（お父さん）」だとも評されているが，その彼が，テレビドラマを離れ，現代笑話の主人公となってさかんに語られているのである。一連の話は，チェ・ブラムシリーズと称され，こればかりを集めた書物も刊行されており，そこには100を超えるチェ・ブラムシリーズの話例が収録されている。それらの話群中には，たわいない単なる笑話も多く含まれているが，一方，ここに紹介したような諷刺の毒を含みこんだ話例も少なからず存在している。

この場合，如上の語りに見られるように，笑いをとりつつ，権威に従属しないチェ

図　チェ・ブラム（「チェ・ブラム イヤギ」3より）

・ブラムは，現代韓国のトリックスターであるといえよう[9]。これに対して，日本では，奇異な言動で笑いを誘う大衆の人気者として，プロ野球監督の長嶋茂雄をあげることができ，実際，彼にまつわる現代笑話も知られているが[10]，しかしそれらの中に権威を諷刺する類の話を見出すのは困難である。このことは，日本の社会状況を象徴する現象として理解できるものと思われるが，これについては次章で言及する。

(4) 肝の大きい男

さきに，韓国社会における女性観をあらわした現代伝説を取り上げた。そこに見られるような男女差別の意識や語りはたしかに今日においても存在している。しかし，一方では，男女の関係性に若干の変化の兆しも見え始めている。それは次のような語りによっても知ることができる。

---

9) トリックスターとは，文化人類学や神話学における分析概念で，「策略をめぐらし，いたずらをして，それまであった秩序を一時的に破壊するという役割を担って神話や伝承に登場する人物や動物」[井上 1987] と説明されるもの。

10) 長嶋茂雄による，常識から若干ずれた予想外の言動が，面白おかしく語られることが多く，それらは長嶋ファンが作成したホームページで多数紹介されている。その一例をあげると，次のようなものである。

「燃える男・長嶋茂雄伝説」

甲高い声質とともに英語をミックスした長嶋語はすっかり有名であるが，いまだに世間に流布している長嶋を主役にした伝説は数々ある。2つ紹介しよう。

「立教大学時代の長嶋が，友達がフランス語の辞書を買いにいくというのでつきあって曰く，『英語にもこういうのがあったら便利なのになぁ』」

「亜希子夫人との婚約時代，しつこくつきまとうマスコミ関係者に，『いいかげんにしてくれよ。僕にもデモクラシーがあるんだ』」。

こうしたエピソードのどこまでが本当の話かはわからないが，いかにも長嶋ならいいそうな雰囲気だが，このようなジョークができるということ自体が，長嶋茂雄の国民的なアイドル性を示しているといえよう。(http://www.jolf.co.jp/fire/cyberbook/cb2_5.html)

［話例16］

肝の大きい男って，どんな男だろうか。

① 朝，ご飯を要求しながら食卓に座る男。

② 妻が無駄口をたたくとき，話を切る男。

③ 妻の目をまともに見ながら口答えをする男。

④ 朝，布団を片付けず，皿洗いは会社から帰ってからするよ，という男。

⑤ 妻と外食をしたあと，自分で勘定を払おうとせず，妻をレジのほうに少しずつ押し出す男。

⑥ 妻よりも収入が少ないくせに，妻よりもご飯をたくさん食べる男。

⑦ 妻が雰囲気を出すためにせっかく新しいパジャマに香水をかけて待っていたのに，家に帰るなり鼻をふさぎながら，「これ何のにおい？」と聞く男。あるいは，「何か香りがしない？」と聞く妻に対して，「何？　おまえおならしたの？」と聞く男。

⑧ 病院に行ってエックス線を撮ってみると，実際に肝が大きい男。

（話者は翰林大学の女子学生。1996年採録）

これは，95年から96年にかけて流行したもので，この他にも，肝の大きい男の説明はさまざまになされ，類似の語りが数多く知られているが，いずれも，家父長的価値観を当然のものとする男性とそれに従順な女という既成の男女の関係性を逆転させ，強い女の立場から，それに従わない生意気でセンスのない男を数え上げるという内容になっている。それは，今日では女性の地位や力が上昇しているのに，それに気づかない旧態然とした男性を皮肉ったものであるといえよう。

ところで，この語りが広まった95年は，大邱の地下鉄工事現場のガス爆発事故やソウルのデパート崩壊事故，同じくソウルの聖水大橋崩壊事故など，大事故が相次いだ年でもあったが，それらの事故は，この「肝の大きい男」のパロディとしての「肝の大きい女」として語られもした。

［話例17］

「肝っ玉の大きい女は？」

「地下鉄に乗って橋をわたってデパートに行く女」

（渡辺吉鎔『韓国言語風景』岩波書店，1996年）

(5) 軍　隊

さきに，軍隊で伝承される現代伝説を取り上げたが，軍隊では，笑いを生じさせる口頭伝承も伝えられている。これは，現役の軍人たちによって歌として歌われているものであり，「現代笑話」という「話」そのものではないが，現代笑話に通じる性格を有した口頭伝承ということで次に紹介しておこう。

［話例18］
もう寝てもいいのかと思ったら起床。
食いはじめれば，もう終わり。
外泊したいと思えば，外泊禁止。
遊ぼうとすれば，休み終わり。
なじんだかと思ったら，もう転出。
ちょっと勉強はじめれば，作業しろ。
ちょっと楽になったと思ったら，すぐ転役。
（話者は，翰林大学の男子学生。1997年採録）

［話例19］
大佐，中佐，少佐は，アメリカ製コンドーム。
大尉，中尉，少尉は，日本製コンドーム。
上士，中士，下士は，韓国製コンドーム。
かわいそうな自分は，アイスキャンデー・ビニール。

大佐，中佐，少佐は，処女と寝る。
大尉，中尉，少尉は，経験のある女と寝る。
上士，中士，下士は，娼婦と寝る。
かわいそうな自分は，マスターベーション3回。
（話者は，翰林大学の男子学生。1997年採録）

どちらも，軍隊内の生活や軍隊の厳しい階級制を歌詞にして，自嘲的ともいえる笑いを引き起こすものとなっている。この手の口頭伝承も数多く存在するらしく，今後，軍隊の現代伝説とともに事例の集積が望まれる。

なお，徴兵制については，軍隊の中だけでなく，軍隊外における一般的な笑話のネタとしても登場している。例えば次のようなものだ。

［話例20］

頭の薄い学生がいた。アルバイトして金を貯め，ついに植毛した。満足して家に帰るとお母さんが言った。「お前，令状来てるよ」。

（話者は，翰林大学の男子学生。1997年採録）

(6) IMF シリーズ

1997年，それまで漢江の奇跡と称され高度成長を続けてきた韓国社会は未曾有の経済危機に遭遇した。同年末には，IMF（国際通貨基金）の介入が開始され，また大不況に連動して企業では大規模なリストラが断行された。社会は大きな混乱状態に陥ったのであるが，そうした中で以下のごとき語りが生まれている。

［話例21］

金泳三が退任を前にして，外国人記者たちと記者会見をした。ある記者が，「あなたは，この5年間の自己の成績はどんなだと思いますか？」。金泳三は，口ごもり，顔を赤くしながら言った。「I am F」。（F は，韓国の大学の成績評価において「不合格」を意味する記号。話者は，翰林大学の男子学生。1997年採録）

［話例22］

IMF 時代になり，就業が大変難しくなっている。入社試験を受けるときには，答案用紙の隅に，次のように書くくらいじゃないと，試験に通らない。

現代電子入社試験：衛星放送故障時，酸素ボンベだけを与えてください。宇宙船は絶対に必要ありません。

韓国地下鉄公社入社試験：坑道崩壊時，救助絶対不要。保険金は会社へ返納します。

韓国電力入社試験：原子炉内での勤務可能。雨天時高圧線修理の際，断電不要。

大宇造船入社試験：長時間水中作業時にも酸素ボンベ不要。ライターで溶接可能。

韓国火薬入社試験：爆破実験時，密着肉眼観察後，報告可能。
起亜自動車入社試験：追突実験時，本人直接搭乗後，報告書提出可能。
韓国タイア入社試験：口でタイア空気注入可能。
環境庁入社試験：毒劇物，汚染物質，食べて無くします。
（話者は翰林大学の男子学生。1998年採録）

このような IMF シリーズのうち，少なくとも［話例21］は，IMF 管理体制下に入った約一ヶ月後の98年１月下旬にはすでに語られていた。社会の出来事はすかさず現代笑話として語られるのである。

さて，以上，現代笑話の事例を眺めてきたが，これらの話例を見ると，韓国では現代笑話 ── それもとりわけ政治や権力，社会問題に対する諷刺的内容を有する話 ── がいかにさかんに語られてきているかが理解できよう。全斗煥，金泳三といった大統領のパーソナリティが戯画化され，官をはじめ社会のあちこちに蔓延る権威主義に間接的な抵抗が試みられ，ジェンダーの変容，軍隊内の階級や徴兵制，大事故，IMF 状況といった社会矛盾・時事問題についての諷刺が次から次へと生み出され語りつがれる。テレビドラマの主人公も，ドラマでのキャラクターは早々に脱ぎ捨て，権威に従属しないトリックスターとして現代笑話の主人公に生まれ変わり，「国民的」人気を勝ち得ているのだ。学生運動や労働運動がこれらの語りの磁場となることも少なくない。こうした状況の背景に，独裁政権下の社会状況，民主化闘争，深刻な労働問題，急激な経済発展とそれにともなう諸々の矛盾，をはじめとするさまざまな政治的・社会的現実があることは容易に想定されるところである。

なお，これら現代笑話の語りは，現代伝説の場合と比べるとより日常的な場でなされているといえ，またその生成，変化，衰退のサイクルは相対的に短い波動を描くことが多いと指摘できる。

５．現代民話の日韓比較

見てきたように，現代伝説に関しては日本社会と韓国社会の間にある種の類似性を認めることも可能であるといってよい。これに対して，現代笑話のあり方については，目下のところ，今日の日本社会に類似性を見出すことは困難であるように思われる。

たとえば，日本の現代民話のアンソロジーの類を見てみても，90年代に刊行されたもの［池田他 1994，池田他 1996，近藤他 1995］の内容は，現代伝説，とりわけ怪談，不思議譚がほとんどで，政治・権力・社会問題に対する諷刺のきいた笑話の類はまったくといってよいほど見当らない。70年代後半から80年代のもの[11] には怪談の類だけでなく笑話も収録されているが，しかしそこに社会諷刺の性格を含む話例を見出すのはやはりそれほど容易ではない。

この場合，こうした状況については二つの説明可能性を考えられる。すなわち，(1) アンソロジー編集の際に偏向があるのではないかということと，(2) こういう状況が社会における実態の反映ではないか，ということであり，おそらく両者の複合がかかる状況を生み出しているものと思われる。

このうち，まず (1) の偏向については，より大きな問題として，アンソロジー編集の背後にある民俗学の研究状況における偏向の表われと見ることもできる。というのも，「日本民俗学」の都市民俗研究における現代民話論のパラダイムが，妖怪・不思議譚，境界・不思議空間を検討の中心に捉え，これを開発・都市化によって人々が抱えることになった不安心意と関連させて考察するというものだからである。そこでは，社会的・政治的な問題意識が希薄であり，現実を民俗宗教の視点からしか見ていないきらいがある。

このパラダイムは，『都市と農村』で提示された柳田國男の見解[12] をふまえて宮田登が積極的に展開し，その後多くの論者がその論調に従ったパラダイムであり，「宮田パラダイム」とでもいいうるものだ。宮田の「現代の民話」観は，次の言説によく表れている。すなわち，

> アメリカの都市伝説に対応して，日本の都市伝説は，うわさ話とか世間話などが現代の民話という形で，主として口承文芸のジャンルで採集されてきた。それらをみると，神，仏，霊魂に関わる幽霊や妖怪の話が多いのである。それがどういうことを意味するのかは，一つの問題であろう。日本の都市の精神を語るとき，都市の中から生み出されているフォークロアを発見することは，その本質を究明するのに欠かせないのであって，今後もその作業が活発に行なわれるのではないかと思われる［宮田 1996］。

---

11)　1978年以降『民話の手帖』に連載され，その後『現代民話考』全12巻（1985～1996）にまとめられた松谷みよ子による一連の話例集をさす。

12)　柳田國男は，『都市と農村』において，（都市では）「土の生産から離れたという心細さが，人をにわかに不安にもまた鋭敏にもしたのではないか」［柳田 1991］と述べている。

というものである。

また，「宮田パラダイム」に則った民俗学者の言説としては，例えば次のようなものをあげられる。

> 都市の人々の心意上の不安や空白がうわさ話によって一時的に解決されることになるが，不安や空白はたえず生まれ，それを埋めるための手段が求められる。うわさ話のようにイメージを働かせ他人に話し他人から聞くというコミュニケーションを媒介に現実とのギャップを埋めていくことはある意味では健全であるかもしれない［野沢 1996］。

いずれにせよ，今日の民俗学界における現代民話把握のパラダイムとは，こうした言説に示されているようなものなのである[13]。

ただ，この場合，民俗学以外の世界には，傾聴すべき現代民話観の存在を認めることができる。すなわち，劇作家の木下順二は，「まだはっきりと形は成さないながら，『現代の民話』の種が僕たちの社会の中に生まれて来つつあることは疑いがない。その種は，突飛なようだがあるいは『税金』であるかも知れない。『再軍備問題』であるかも知れない。『菅証人事件』であるかも知れない。僕は僕なりに戯曲を書く人間としての立場から，これらテーマの素材とも言うべきもの――それらは確かに複雑であり巨大であり強烈である――を，現代という決定的な瞬間において生々しく定着させたいと思う」［木下 1952］と述べている。「戯曲を書く人間としての立場」，すなわ

13）なお，筆者自身の本稿に関わる調査の過程が「宮田パラダイム」に大きく規定されていたことについてもここで言及しておきたい。すなわち，私は，1994年に韓国に滞在した際，韓国の大学生に彼らの周囲の現代民話を採集してもらい，大学の講義の期末レポートとしてこれを報告してもらうという形で調査を行なった。この結果，多くの現代民話が集まったが，それらの多くは怪談であり，そこには前述のように日本とのある種の類似性も認められたのであった。そこで私は，早速この結果を，日韓の現代民話をめぐる類似性を相対的に強調するかたちで，学界に報告［島村 1994，島村 1995］した（なお，この時点では収集された話例群を「都市伝説」の名称で位置付けていた）。

ところが，その後1年間の日本帰国ののち，1996年に再び渡韓して現地での生活を開始したのだが，この時期における私の韓国語能力の向上にともない，韓国の現代民話についての私の認識は大きく転回したのであった。生活者としてこの地で日常的に耳にする現代民話は，かつて報告したような怪談系統の物語に限定されているわけではなく，笑話系統の物語，とりわけ政治・権力・社会問題に対する諷刺をモチーフとする話群も多く語られているのだということに気づいたのである。そしてこの線で再度調査を行なってみた結果，膨大な数の笑話系統の話例を収集することができたのであった。

この間の経緯は次のように整理できよう。「日本民俗学」徒として訓練を受け，「日本民俗学」の言説体系が身体感覚のレベルにまで染み込んでいた私は，94年当時，韓国で現代民話を調査・分析する際にも，「日本民俗学」における都市民俗研究のパラダイムとしての「宮田パラダイム」を無意識にではあったが持ち込んで，これを行なった。

ところが，韓国社会での現地語による直接的見聞が深まるにつれて，私の内なる「宮田パラダイム」は解体され，韓国社会の実態に即した現代民話研究が要請されるに至ったのである。

ち再話の立場からの発言であり，木下の主張をまるごと民俗学研究の現場に持ち込むことはできないが，しかし「税金」「再軍備」「菅証言事件」を現代民話の問題として捉える視点は，民俗学に欠けていてしかも必要不可欠であるはずの視点といえる。

次に，現代民話をめぐる状況についての説明可能性のうちの2点目については，70年代以降の高度大衆社会状況における政治的・社会的無関心の増大を考えると納得がいきそうだ。一億総「中流」幻想の広がりとともに，脱政治化し去勢されてしまった現代日本社会の住民たち，「ソフトな管理社会」［ガバン・マコーマック 1998］に生かされていることに無自覚な現代日本の大衆，の状況の反映であるという解釈である。ただ，この場合は同時に，時代の変遷や階級という点で論を組み立てる必要があろう。たとえば，近世期（の町人・農民の間）においては，権力に対する諷刺的な「世間話」は数多く存在していたが［大島 1970］，しかし，飯沢匡［1977］が説くように，江戸時代の武士階級における笑い排斥の気風が近代以降にも継続し，しかもいつしかそれが社会全体を覆い尽くしてしまったという変遷過程を想定できるかもしれない[14]。

もっとも，今日の日本には本当に社会諷刺的な現代民話が皆無なのかどうかを検討する余地もまだ残っていよう。社会諷刺的な現代民話が無いように見えるのは，単に民俗学者たちが「中流」の人々の語りにしか耳を傾けず，社会の多様な層に分け入って聞き取りをしてこなかっただけにすぎないのかもしれない。

色川大吉は，民衆史の立場から，民衆運動の展開と関わる「抑圧者諷刺のフォークロア」や，「昭和の民話と変革主体の形成」について具体例をあげて論じ，民俗学者達に対して，かかる視点からの研究の必要性を説いている［色川 1994］。しかし，民俗学の側からは，色川の問題提起に応えた現代民話研究はまだ現われていない。今後，民俗学者たちは，「宮田パラダイム」に安住することなく，社会の多様な層にどんどん入り込み，たとえば，労働の現場や労働組合運動，住民運動の中に「抑圧者諷刺のフォークロア」としての現代民話が育っていないか？　水俣や成田，読谷や嘉手納といった地域においてはどうか？　在日コリアン社会や被差別部落などマイノリテ

14）ただし，この「変遷過程」が，それほど単純・一系的に進んだわけではもちろんあるまい。たとえば，「支那事変」の頃には「銃後を守る人々はむろん，出征兵士の間でも，軍事国家を保留にふす『民俗語彙』に彩られたミニマルでソフトな言説世界／『世間話』が展開していた」［本康（大門加筆）1995］ことが，永井荷風の『断腸亭日乗』その他の資料をひもとくとわかるのだという指摘がある（なお，この指摘は，近代史研究者と若い民俗学者によって近年なされたものだが，現代民話研究における「宮田パラダイム」を相対化するものとして貴重だ。この種の指摘をしうるような研究を我々は今後展開してゆくべきである）。

ィの間では？　といった調査を行なうべきなのである[15]。

結局，現段階では，今日の日本における現代民話の存在状況について明確な結論を出すことはできない。すべては今後の調査を待つしかない。ただ，現代民話の日韓比較という観点で検討を行なってみた結果，日本社会の側についての問題の所在が浮かび上がってきたということは確かである。現代民話研究も含めた民俗学の日韓比較に関しては，旧来多くの関心が持たれて来た伝播論的・文化圏説的な意義のみならず，こうした問題発見の契機としての意義もそこに見出すことができるといえよう。

参考文献

(日本語)
飯沢　匡　1977 『武器としての笑い』岩波書店。
池田香代子他編著　1994 『ピアスの白い糸 ── 日本の現代伝説 ──』白水社。
──────　1996 『走るお婆さん ── 日本の現代伝説 ──』白水社。
伊藤亜人　1996 「小話」『アジア読本 韓国』河出書房新社。
井上兼行　1987 「トリックスター」『文化人類学事典』(石川栄吉他編)，弘文堂。
色川大吉　1994 『昭和史世相篇』小学館。
大島建彦　1970 『咄の伝承』岩崎美術社。
小川　了　1985 『トリックスター ── 演技としての悪の構造 ──』海鳴社。
加藤千代　1990 「中国世間話研究への試み」『文化人類学』8。
──────　1991 「中国の『都市新伝説』 ── 男と女の話を読む ── 」『口承文芸研究』14。
木下順二　1952 「民話管見」『文学』1952/5。
近藤雅樹他編著　1995 『魔女の伝言板 ── 日本の現代伝説 ──』白水社。
近藤雅樹　1997 『霊感少女論』河出書房新社。
島村恭則　1994 「韓国の都市伝説」『日本学誌』15。
──────　1995 「都市伝説の韓日比較」『比較民俗研究』12。
──────　1999 「70年代韓国における流言」『国立歴史民俗博物館研究報告』82。
鈴木一聲　1995 「日本における風水の受容」『地理学研究』23。
池　明観　1995 『韓国 民主化への道』岩波書店。
常光　徹　1993 『学校の怪談 ── 口承文芸の展開と諸相 ──』ミネルヴァ書房。
T・K生／『世界』編集部編　1977 『第三・韓国からの通信 ── 1975.7～1977.8 ──』岩波書店。
野沢謙治　1996 「都市の場」『現代民俗学入門』(佐野賢治他編)，吉川弘文館。
牧田　茂　1985 「民俗学の対象としての『世間話』」『昔話 ── 研究と資料 ──』14，三弥井書店。
松谷みよ子編　1985-1996 『現代民話考』全12巻 (①河童・天狗・神かくし ②軍隊 ③偽汽

15) 翻って，韓国社会の現代民話についても，今後，同様の観点から多様な層を対象とした調査がなされねばならないことはいうまでもない。

車・船・自動車の笑いと怪談 ④夢の知らせ・ぬけ出した魂 ⑤あの世へ行った話・死の話・生まれかわり ⑥銃後 ⑦学校 ⑧ラジオ・テレビ局の笑いと怪談 ⑨木・霊・蛇 ⑩狼・山犬・猫 ⑪狸・むじな ⑫写真の怪・文明開化)，立風書房。
松谷みよ子　1989 「現代民話とはなにか ── 中間報告 ──』『民話の手帖』39。
宮田　登　1986 『現代民俗論の課題』未来社。
────　1993 『「心なおし」はなぜ流行る ── 不安と幻想の民俗誌 ──』小学館。
────　1995 『民俗文化史』放送大学教育振興会。
────　1996 「都市民俗学・祭祀空間論」『日本民族学の現在』(ヨーゼフ・クライナー編)，新曜社。
本康宏史 (大門哲加筆)　1995 「戦争のフォークロア」『銃後の人々 ── 祈りと暮らし ──』石川県立歴史博物館。
柳田國男　1991 「都市と農村」『柳田國男全集』29，筑摩書房 (原著は1929年刊行)。
吉沢和夫　1989 「現代民話への視角 ──『東奥異聞』から『現代民話考』まで ──」『民話の手帖』39。
渡辺吉鎔　1996 『韓国言語風景』岩波書店。
エドガール・モラン　1973 『オルレアンのうわさ ── 女性誘拐のうわさとその神話作用 ──』(杉山光信訳)，みすず書房。
ガバン・マコーマック　1998 『空虚な楽園 ── 戦後日本の再検討 ──』みすず書房。
ジャン・ノエル・カプフェレ　1988 『うわさ』(古田幸男訳)，法政大学出版局。
ジャン・ハロルド・ブルンヴァン　1988 『消えるヒッチハイカー ── 都市の想像力のアメリカ ──』(大月隆寛・重信重彦・菅谷裕子訳)，新宿書房。(Brunvand, Jan Harold. 1981 The Vanishing Hitchhiker: American Urban Legends and Their Meanings. New York: Norton)。
────　1990 『チョーキング・ドーベルマン ── アメリカの新しい都市伝説 ──』(行方均訳)，新宿書房。
────　1991 『メキシコから来たペット ── アメリカの「都市伝説」コレクション ──』(行方均訳)，新宿書房。
────　1992 『くそっ！ なんてこった ──「エイズの世界へようこそ」はアメリカから来た都市伝説 ──』(行方均訳)，新宿書房。
────　1998 『赤ちゃん列車が行く ── 最新モードの都市伝説 ──』(行方均訳)，新宿書房。
ラディン／ケレーニイ／ユング　1974 『トリックスター』(河合隼雄他訳)，晶文社。
ロルフ・ヴィルヘルム・ブレードニヒ編　1992 『悪魔のほくろ ── ヨーロッパの現代伝説 ──』(池田香代子他訳)，白水社。
────　1993 『ジャンボジェットのネズミ ── ヨーロッパの現代伝説 ──』(池田香代子他訳)，白水社。

(韓国語)
김　호일　1992 『최불암 이야기』3，도서출판 백암。
朴　桂弘　1992 「都市民俗学」『増補・韓国民俗学概論』蛍雪出版社。
徐　廷範　1985 『学園別曲』汎潮社。
────　1998 『거덜別曲』한나라。
林　在海　1996 「民俗学と都市民俗学」『韓国民俗学の新しい認識と課題』集文堂。